

# でんち

一般 電池工業会  
社団法人 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011  
東京都港区芝公園三丁目5番8号  
機械振興会館内  
電話 (03) 3434-0261 (代)  
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>  
ご意見・お問い合わせ <http://www.baj.or.jp/contact/>  
発行人 淡路谷隆久

平成26年1月1日



## 平成26年・年頭のご挨拶

一般社団法人 電池工業会  
会長 依田 誠

新年あけましておめでとうございます。  
平成26年の新春を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。  
日頃より電池業界へご理解と発展に、ご厚情を賜っております  
関係各位に対しまして心より感謝申し上げます。



初めに、過去5年間の国内市場における電池の販売量の推移について簡単に申し上げます。機械統計によりますと、一次電池は2007年に販売個数が43億個であったものが、2012年には29億個と数量は激減しております。長期的な需要減が続く中、震災後に懐中電灯用の大型の乾電池の特需が一時的にあったものの、2012年はその反動もあり大きく個数を減らす

こととなりました。また、二次電池は、同じく2007年に販売個数18億個であったものが2012年には16億個と減少しています。自動車の生産台数の落ち込みに伴う鉛バッテリーの販売個数が減少したことに加え、国際的な競争が激しいリチウムイオン電池の個数が減少したことが影響しています。このような中で、ニッケル水素電池は、乾電池代替品やハイブリ

ッド車用として数を増やしています。2013年においても電池全体での数量は減少傾向ですが、自動車用バッテリーについては国内での新車生産が好調なことに支えられ、販売個数でほぼ前年並みに落ち着いているような商況です。

金額面では、一次電池は、2007年度比で減少しましたが、二次電池は増加しました。民生用は物量減を反映して、厳しい状況が継続していますが、ニッケル水素電池がハイブリッド車用として大きく増加、また、車載用リチウムイオン電池も2013年に採用が拡大しました。加えて、2013年は円安が主原因で民生用もやや持ち直しています。鉛電池は数量と同様の傾向で、他の二次電池に比べると安定しています。

民生用マーケットは長期的に減少・縮小している傾向であるかのように申し上げました。しかしながら現在、分散電源の促進を実現させるために、電池はなくてはならないキーデバイスであること、並びに近い将来大きなマーケットに成長することが予測されていることは、ここにいらっしゃるすべての皆様が認識されていることと思います。経済産業省の蓄電池戦略での試算に拠りますと、2020年には世界の蓄電池の市場規模は20兆円、そのうちの10兆円を日本企業が占有するという目標となっております。

特筆すべきはこの10兆円のうち6兆円が電力系統用・定置用の蓄電池という、現在はまだ量産化が始まったばかりの新しい用途での需要拡大が予測されていることです。電池はこれまでも電池を使うアプリケーションの開発や発展に伴い、マーケットを獲得し需要を拡大してきました。いままさに新しいアプリケーションのマーケットが大きく成長しようとしているところです。電池メーカーならびに電池工業会としてもこうした新しいアプリケーションを育て、マーケットを拡大し、販売統計のグラフを右上がり、上昇方向に転じるように、努力を積み重ねて行きたいと考えています。

実際に、家庭の定置用電源が補助金の効果もあり、今年度には300億円程度の市場に成長することが見込まれております。これらに加えて、従来から実績を積み重ねている産業用鉛蓄電池、アルカリ蓄電池においても、非常用電源等の他、自然エネルギー関連需要に対応できるよう努力しているところで

電池工業会は長年にわたり、「電池の安全で正しい使い方」と「使い終わったあとのすて方」について、一般消費者の方々への啓発活動や電池に親しんでもらうための様々な活動を行ってきました。具体的には「電池フェスタ」などのイベントや「手作り乾電池教室」などの出前授業を通じて、小中学生ならびにそのお父さんお母さんに啓発活動を行っています。「電池フェスタ」は、15年前から開催しており昨年は東京・神戸・福岡の3カ所で開催、約3,200名の参加者がありました。また「手作り乾電池教室」は、夏休み期間を中心に、全国24箇所で開催。約1,000名の小中学生の参加者がありました。

また、一般消費者向けの小冊子「WE LOVE DENCHI」は、小学生でも電池のしくみや使い方などを理解してもらえるように作成しており、毎年改定版を発行しております。昨年は約9,000部を電池工業会が開催したイベント等で配布したほか、ホームページにも掲載しています。是非一度ご覧ください。この他にも、啓発用のポスターや新聞・雑誌等でのPRクイズなど様々なメディアを使った啓発活動を行っております。

電池工業会では使用済電池の再資源化に対する活動にも注力をしています。マスコミや消費者団体等からの問い合わせに真摯に対応するとともに、HPへの掲載や啓発ポスターやPRツールの作成・配布、イベントなどを通じてリサイクルの促進・回収率の向上につながる活動を行っております。

腕時計などに使われる酸化銀電池などのボタン電池などは、回収を行い有効資源のリサイクルを行っています。小形充電式電池については関連団体のJBRC、自動車バッテリーなどの鉛蓄電池については、鉛蓄電池再資源化協会による回収・リサイクルの推進活動に協力しております。

また、定置用の大型リチウムイオン電池のリサイクルに対する審議を開始いたしました。電力貯蔵や家庭用などの大型リチウムイオン電池の需要拡大に向けて、近い将来発生する使用済みリチウムイオン電池の適正な回収・処理方法について、関係省庁や関連団体などとの情報交換を行っております。

さて、一部の電池系では海外製との熾烈な競争や、海外への生産移転などにより、苦戦を強いられているものもありますが、自然エネルギーの導入促

進、スマートグリッドの検討、安価な夜間電力の利用推進など、新たな用途に対応した電池の研究・開発・量産が進められており、様々な分野においてキーテクノロジーの一つとなる電池への注目がますます高まっております。こうした状況の下、電池工業会に対する関心も高まっており、会員も昨年1年間で8社増加し、97社となりました。電池工業会では、この社会的要望に応え、未来社会に貢献できるよう、

これからも会員各社一丸となり全力で取り組んで参る所存です。今後とも、関係省庁ならびに関係各位のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

結びに、会員会社様の益々のご発展と、皆様方のご多幸をお祈りし、年頭の挨拶とさせていただきます。

以上

## 富田局長年頭所感

平成26年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

安倍政権が発足してから一年余り。アベノミクスの三本の矢（①大胆な金融政策、②機動的な財政政策、③新たな成長戦略）を強力に推進した結果、日本経済に久々に活気が戻って参りました。特にリーマンショック、東日本大震災の影響を大きく受け、苦境を経験した電機業界も、ようやく反転の兆しが見えつつあります。

長引くデフレからの早期脱却と経済再生に向けて、日本経済を蝕む3つの歪み、「過剰規制」、「過小投資」、「過当競争」を是正する取組みを通じ、投資拡大や新事業開拓、技術革新などを促すことが必要不可欠です。

そのため、政府は先の臨時国会にて、産業競争力強化法及び国家戦略特区法案を成立させました。その中に企業単位での規制緩和を認める「企業実証特例制度」、企業の事業計画に即して規制の適用の有無を明らかにする「グレーゾーン解消制度」、国主導で大胆な規制緩和を進め世界で一番ビジネスがしやすい環境を創出する「国家戦略特区」など、企業単位、戦略地域単位、全国単位の三層構造で規制改革を加速化する体制を整えました。特に、企業自らの取組に基づいて、特例的に規制が緩和される「企業実証特例制度」は、明日の市場を創造するため、皆様にぜひ積極的にご活用頂きたい制度でございます。

また、産業の新陳代謝やイノベーションを促すための1兆円規模の減税措置を10月1日に決定するとともに、昨年末には5兆円規模の「好循環実現のための

経済対策」を策定しました。これらの施策を可及的速やかに実行し、来年度の消費増税による影響を緩和しつつ、企業業績の改善から経済の好循環を実現し、デフレ脱却と経済再生をさらに推し進めて参ります。



先の震災を契機として、ピークコントロール等の電力需給対策や災害時の非常用電源対策として、定置用リチウムイオン蓄電池に対する社会的関心が急速に高まりました。これを受け、定置用リチウムイオン蓄電池の導入補助事業を平成24年3月から開始し、一般家庭を中心に蓄電池の導入が着実に進んできております。これはまさに関係各所の皆様の厚いご尽力の賜物と深く御礼を申し上げます。

蓄電池は、我が国がなお高い技術力を有しており、EV・HEV等の次世代自動車やエネルギー産業のキーデバイスであるとの認識の下、政府としても、アベノミクス第三の矢である「日本再興戦略」において、今後着実な市場の拡大が見込まれる戦略市場と位置付けております。

平成25年度補正予算においても、こうしたエネルギー政策及び産業政策における蓄電池の重要性に鑑み、引き続き導入補助事業を措置しております。蓄電池の導入を更に促進し、量産効果による価格低減を図ることで、将来的には自立的に普及が進むことを目指して、政府一丸となって支援してまいりま

す。

さらに、昨年4月より、「グリーン投資減税」の対象に新たに定置用蓄電設備が追加され、法人税の減免措置である特別償却又は税額控除を受けることが可能となりました。本制度を積極的にご活用いただき、事業所等への蓄電池の普及の一助になればと考えております。

国際標準の分野においては、各国間の主導権争いが激化している中で、標準化の名の下に我が国の技術が必要以上に諸外国へ開示・流出しないよう防衛するとともに、我が国主導での蓄電システムの標準化に向けて、貴工業会の皆様に奔走していただいております。経済産業省としても、我が国の国際競争力強化のためにも、引き続き、今後の成長分野であるリチウムイオン蓄電池における日本発の国際規格の策定に向けた貴工業会の取組を後押ししてまいります。

蓄電池のような成長分野を戦略的な産業へと育て上げ、世界市場を積極的に獲得していくためには、エネルギー政策、産業政策が一体となって新たなマーケットの創造や国際競争力強化の基盤整備を行っ

ていく必要があります。今後もさらに、蓄電池全体について総合的、包括的な戦略をしっかりと描きつつ、競争力強化に向けた取り組みを推進してまいります。

本年も、関係者の皆様と連携を取りながら、電機・電子産業の発展、日本経済の再生に向けて、積極的に取り組んでまいります。皆様の御協力の程、何卒よろしくお願いたします。

最後になりましたが、「日本再興戦略」を成功に導くためには、不断の挑戦を官民一体で行うことが必要不可欠です。そのため、今後も皆様の創意工夫にあふれた新しい挑戦を、今までとは一線を画したやり方にて、政府として引き続き支援して参りたいと決意を強くしているところでございます。皆様におかれましても、本年を決断とチャレンジの年としていただきますよう、お願い申し上げます。

平成26年1月

経済産業省商務情報政策局長 富田 健介

## 電池工業会の事務局長に中根育朗氏が就任

2014年（平成26年）1月1日付けで、電池工業会の事務局長に中根氏が就任いたしました。中根新事務局長の略歴は、以下のとおりです。

- 1982年 名古屋大学工学部応用化学科卒業
- 1982年 三洋電機株式会社入社し、リチウム二次電池の研究開発に従事
- 1992年 リチウム電池電力貯蔵技術研究組合に出向し、大型リチウム二次電池に関わる国家プロジェクトに関与
- 1995年 三洋電機に帰任し、リチウム二次電池の研究開発に従事
- 2007年 電池工業会に出向
- 2013年 三洋電機を退職
- 2014年 電池工業会の事務局長に就任

### （抱負）

現在、電池産業は大変厳しい状況ではありますが、蓄電池は「蓄エネ」デバイスとしては大変期待されており、今後もさらに発展してゆくものと期待しています。

私は、今後も我が国の電池業界の発展に、微力ながらも貢献出来る様がんばりたく思いますので、宜しくお願いいたします。



# 平成25年度第3回一次電池部会を開催

平成25年12月13日、坂口部会長（東芝電池株）を議長に、平成25年度第3回1次電池部会を開催した。冒頭にコンプライアンスルールを確認したのち、部会長および専務理事より挨拶があり、引き続き各委員会より活動報告が行われた。

## 1. 坂口部会長挨拶

- ・前回議事録を見ると、9月の部会では東京オリンピック招致決定について話しをさせていただいてからあっという間に3か月が経過し、月日の流れが早いと感じている。
- ・景気が良くなれば、消費財である電池にも反映され、販売が伸びてくると期待される。
- ・後ほど統計データの報告にあると思うが、日本国内の一次電池業界の需要はそれほど悲観する数字ではないという状況である。
- ・約20年前、おもちゃ業界とカメラ業界は一次電池を消費していただける業界として柱となる業界であった。しかしながら、昨今のおもちゃ業界・カメラ業界は大きく様変わりしており、一次電池が使われなくなっている。新聞記事によると最近の親御さんがお求めになるプレゼントのNo. 1はゲームソフトとなっており、直接一次電池をお使いいただける商品ではなくなっていることから状況が理解できる。
- ・過去のヒット商品であったミニ四駆など一次電池を直接お使いいただける機器がでてこないと一次電池業界の盛り上がりには欠けるところはあるが、皆さまとともに来年も盛り上げていきたい。
- ・人事異動に伴い来年1月1日付をもって部会委員を野村へ交代することになった。

※部会長挨拶の後、事務局より次回以降の部会長について以下の提案があり承認された。

- ・新部会長：福島氏（現副部会長）
- ・新副部会長：野村氏（坂口氏の後任）

## 2. 淡路谷専務理事挨拶

- ・坂口部会長には、新天地でのご活躍を祈念する。次回より部会長を担っていただく福島様にはよろ



しくお願いしたい。

- ・本日の新聞に来年度の政府税制大綱が決定した記事が掲載されていた。その中に生産性向上設備投資促進減税というものが入り込められることになっている。
- ・内容としては、先端設備と生産ライン、オペレーションの改善のための設備の2つに分かれている。
- ・先端設備として最新の恒温槽を導入すれば減税対象となるなど記載されており、各社において使えるものもあると思うので紹介する。
- ・電池工業会としても事務局にて今期の実績について総括し来年度の活動計画、予算策定していく段階に入っている。
- ・事務局メンバーに対して、「会員企業の感覚で予算／計画を立案してほしい」と要請している。電池工業会会員よりいただいている会費で工業会運営をしていることから、会員各社の企業の皆様と同じ感覚で立案する必要があると考えている。部会の皆様にもこのことをご理解いただき、次回の部会での来年度の予算審議をお願いしたい。

## 3. 委員会報告

### (1) ボタン電池回収推進委員会（楢本委員長）

- ・ボタン電池回収の協力店数は順調に増加。
- ・回収量も前年比を上回る。
- ・広域認定について収集運搬事業者を更新し、変更

廃止届を提出。

- ・なりすましによる回収缶の持ち去りが再発していたことが判明。当該チェーンの本部に報告し、再度社内周知徹底を実施した。

## (2) 器具委員会 (蜂谷委員長)

- ・携帯電灯SBA規格 (SBA S 1601) の英訳版を完成。注文毎に事務局がコピーで冊子にし、販売する。
- ・ホームページの携帯電灯関連 (携帯電灯の歴史/携帯電灯の種類/携帯電灯の性能表記/光の定義について) の内容をアップデートした。
- ・防犯ブザー規格SBA S1602の改定 (防滴性の追加検討等) は、審議継続とした。

## (3) 資材委員会 (橋本委員長)

- ・電池に使用される金属材料の需給/価格動向や今後のリスクについて情報を得るべくJOGMECとの意見交換会を実施。
- ・下請法遵守の取組みとして、公正取引委員会のホームページに学習ビデオ動画がアップされており各社の社内勉強会活用を促した。
- ・亜鉛・リチウム・マンガン・ニッケル・コバルトの5大材料については、全アイテムとも需給にタイト感はなく市況価格は安定推移。
- ・資材委員会メンバーで精練工場を視察した際の報告がなされた。

## (4) 業務委員会 (佐藤委員長)

- ・市販用電池の適正表示に関し、ニッケル水素ワーキンググループで具体的な検討を行なった。
- ・新設された統計合同委員会について、活動状況の報告があった。
- ・各部会業務委員会/分科会で統計マニュアルの再整備や統計品目管理台帳の作成などの取組みを行う。

## (5) PL委員会 (蜂谷委員)

- ・電池工業会ホームページ内のクレームに関するデータについて、最新版へ更新を予定。
- ・電池の安全使用のための消費者啓発活動として活用されている小冊子「We Love DENCHI」の一次電池部分について、PL委員会にて改訂案を作成し来年度版で反映することを予定。
- ・施設見学会を開催。家電リサイクル工場を見学し、家電リサイクルの現状を確認。

## (6) 技術委員会 (仁司委員長)

- ・規格小委員会活動 (IEC関連) : IEC60086シリーズの改正について10月に開催されたIEC/TC35 国際会議 (ミュンヘン) での合意内容の確認および次回開催の国際会議への対応を審議した。
- ・規格小委員会活動 (JIS関連) : JIS C 8513 (リチウム一次電池の安全性) 改正審議。8月から改正原案を検討している。JIS C 8514 (水溶液系一次電池の安全性) 改正審議。
- ・リチウム小委員会活動: IEC規格のIEC60086-4 (リチウム電池の安全性) のメンテナンス作業を行なう。
- ・リチウム電池輸送規制: リチウム金属電池の航空輸送について審議。
- ・リチウムコイン二次電池国際規格ワーキンググループ: 安全性規格 (IEC 62133) 及び性能規格 (IEC 61960) の改訂審議。

## (7) 国際環境規制総合委員会 (醍醐副委員長)

- ・地域別 (欧州/北米/アジア/中南米) の環境規制状況レポートを作成。
- ・海外の電池工業会とのコンタクトを推進。

## (8) 広報総合委員会 (山本委員長)

- ・展示会・イベント関係: ・でんちフェスタを11月2日に開催。今年度で14回目の開催となり1,735名の来場者があり盛況であった。本年度の九州地区開催場所であった九州エネルギー館は閉鎖となるため、新たに会場探しが必要となった。
- ・キャンペーン・PR関係: 電池の安全使用を啓発すべく例年通りキャンペーン広告を毎日新聞に掲載した。電池月間PRの為、朝日新聞で電池の日、バッテリーの日の広告掲載を行なったほか、業界誌や雑誌でも広告や記事掲載を推進。

以上



# 平成25年 12月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	3日(火)	統計合同委員会	統計に関する規約・規程類の検討、他。
	4日(水)	2013プロ野球最優秀バッテリー賞表彰式	2013年のプロ野球セ・パ両リーグの最優秀バッテリーの表彰。
	6日(金)	広報総合委員会	2014年度のでんちフェスタの検討、2013年度のでんちフェスタ総括、電池くんPRキャンペーンの抽選会、他。
	13日(金)	新種電池研究会	電池討論会まとめ。
	16日(月)	使用済み自動車用LIB研究会	自動車課への説明資料作成、他。
	18日(水)	184回 講習実施委員会	神奈川県にて開催した蓄電池設備整備資格者講習の修了考査につき、可否を判定。
	25日(水)	国際環境規制総合委員会	地域別動向アップデート、来年度活動計画の検討。
二次電池部会	2日(月)	据置鉛・EV鉛分科会	硫酸規格対応、他。
	3日(火)	用語分科会	SBA S0101 改正審議、他。
	5日(木)	PL委員会	産業用電池の市販品対応、農機建機向け安全対策。
	6日(金)	自動車鉛分科会、S0101WG合同	SBA S0101審議、EN規格SBA規格化対応。
	10日(火)	据置アルカリ分科会	Ni環境規制への対応、他。
	16日(月)	環境委員会	環境情報の共有。
	17日(火)	産業用電池リサイクル委員会	産業用電池リサイクルスキームの検討。
	17日(火)	資材委員会	追加調査の見積り書 項目検討、他。
	18日(水)	据置鉛分科会	JWG82対応、SBA S0601改正審議。
	19日(木)	小形鉛分科会	IEC62485-1対応審議、他。
	20日(金)	電気車鉛分科会	SBA G 0806 改正審議、他。
	20日(金)	産業用電池技術サービス分科会	SBA G 0605 改正審議、他。
	24日(火)	用語分科会	SBA S0601改正審議、他。
	二次電池第2部会	3日(火)	LIB蓄電システムワーキンググループ
5日(木)		二次電池第2部会	各委員会からの報告および審議事項。
11日(水)		LIB蓄電システムワーキンググループ	建築基準の変更審議。
13日(金)		国際電池輸送委員会	ICAO臨時ワーキンググループへの対応審議。
16日(月)		次世代蓄電池委員会	産業用Li-Ion電池の政策審議。
17日(火)		法規ワーキンググループ	産業用Li-Ion電池に関する情報共有。
18日(水)		据置LIB分科会	IEC62619,62620,61427-2の原案審議。
18日(水)		LIB蓄電システムワーキンググループ	建築基準の変更審議。
18日(水)		再資源化委員会	小形充電式電池の識別表示ガイドラインに関する審議。
20日(金)		LIB安全性技術ワーキンググループ	内部短絡試験に関する審議。
一次電池部会	2日(月)	PL委員会	消費者啓発内容の検討・HP掲載内容の更新検討、他。
	5日(木)	器具委員会	携帯電灯SBA規格の英訳版検討、携帯電灯関連のBAJ HP改定検討。
	6日(金)	業務委員会	統計に関する規約・規程類の検討、他。
	11日(水)	リチウムコイン二次電池 国際規格ワーキンググループ	IEC62133の改訂のための検討。
	11日(水)	リチウム小委員会	IEC60086-4 CDV案検討、リチウム金属電池輸送規制関係、他。
	12日(木)	技術委員会	各小委員会及びワーキンググループの活動報告。
	13日(金)	一次電池部会	各専門委員会の活動報告、他。
	13日(金)	規格小委員会	IEC 60086シリーズの検討、JIS C 8513改正審議、他。

# 10月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2013年10月）

単位：数量—千個、金額—百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

2013年より経済産業省の機械統計は「その他の乾電池」が削除されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	371,365	65,770	101%	106%	3,386,729	598,180	91%	90%
一次電池計	239,165	8,393	99%	99%	2,149,194	72,064	92%	93%
酸化銀電池	68,059	1,199	87%	82%	634,110	11,243	85%	80%
アルカリ乾電池計	93,760	4,373	99%	100%	792,718	33,782	93%	93%
単 三	50,745	1,978	100%	99%	434,662	15,945	91%	93%
単 四	26,743	1,070	97%	94%	240,826	8,987	99%	98%
その他	16,272	1,325	100%	106%	117,230	8,850	90%	91%
リチウム電池	77,346	2,821	113%	108%	722,366	27,039	98%	100%
二次電池計	132,200	57,377	105%	107%	1,237,535	526,116	90%	90%
鉛電池計	2,691	13,856	102%	110%	25,584	128,833	97%	99%
自動車用	1,988	8,531	105%	111%	18,912	77,336	97%	101%
その他の鉛蓄電池	703	5,325	93%	109%	6,672	51,497	96%	97%
アルカリ蓄電池計	48,010	17,110	103%	106%	512,845	168,020	96%	90%
ニッケル水素	38,025	15,568	111%	106%	381,804	150,566	100%	89%
その他のアルカリ蓄電池	9,985	1,542	80%	103%	131,041	17,454	87%	97%
リチウムイオン蓄電池計	81,499	26,411	107%	107%	699,106	229,263	85%	85%
車載用	24,079	12,963	199%	115%	150,111	97,091	287%	88%
その他	57,420	13,448	89%	100%	548,995	132,172	72%	82%

# 10月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2013年10月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	179,841	37,218	105%	134%	1,699,055	331,514	93%	119%
一次電池計	82,110	2,159	117%	113%	789,007	19,674	101%	102%
マンガン	52	7	7%	40%	1,408	101	23%	68%
アルカリ	3,303	68	57%	60%	41,641	662	86%	85%
酸化銀	42,154	608	116%	127%	397,224	5,815	109%	111%
リチウム	36,460	1,354	135%	119%	347,017	12,338	97%	102%
空気亜鉛	130	1	76%	82%	1,051	12	77%	86%
その他の一次	10	120	7%	72%	665	747	28%	71%
二次電池計	97,731	35,059	97%	136%	910,048	311,839	87%	121%
鉛蓄電池	152	1,030	106%	147%	1,649	8,901	118%	120%
ニカド	6,895	602	69%	77%	102,224	8,704	85%	87%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	0	5	0%	209%
ニッケル水素	11,368	6,217	110%	145%	126,166	55,287	107%	120%
リチウムイオン	73,788	18,228	100%	123%	635,450	167,721	85%	111%
その他の二次	5,528	8,982	85%	173%	44,559	71,221	68%	161%
全電池合計（輸 入）	159,827	12,804	109%	124%	1,207,489	110,396	109%	127%
一次電池計	149,667	2,247	109%	137%	1,123,114	17,632	110%	140%
マンガン	19,827	225	86%	110%	138,261	1,441	85%	103%
アルカリ	112,726	1,468	114%	152%	807,914	9,906	113%	134%
酸化銀	444	10	74%	77%	6,473	138	139%	128%
リチウム	14,108	452	130%	126%	130,465	4,910	133%	166%
空気亜鉛	2,487	38	58%	70%	39,044	592	96%	116%
その他の一次	76	54	367%	135%	957	646	32%	301%
二次電池計	10,161	10,557	119%	121%	84,375	92,764	108%	125%
鉛蓄電池	650	2,566	77%	87%	6,279	23,677	93%	98%
ニカド	152	191	154%	121%	1,485	1,952	36%	110%
ニッケル鉄	0	0	—	—	2	10	473%	1354%
ニッケル水素	2,019	450	129%	99%	17,825	4,586	114%	98%
リチウムイオン	5,595	6,562	116%	157%	43,912	52,679	99%	162%
その他の二次	1,745	789	143%	80%	14,871	9,860	218%	88%